

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2395600022		
法人名	有限会社 あおば会		
事業所名	あおば会グループホームやすらぎの家(北)		
所在地	愛知県あま市坂牧向江70番地		
自己評価作成日	令和3年3月15日	評価結果市町村受理日	令和3年5月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=truet&JigyosyoCd=2395600022-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	令和3年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症が重度化された方が多くなった中でもお一人お一人へ何が必要なのかを考え、安心して過ごして頂ける様に職員全員が支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大治町に隣接し、田畑や住宅が点在するのどかな環境の中に、一見民家のような佇まいで木造平屋建てのグループホームが建っている。年ごとに新しい住宅や老人福祉施設などが建てられ、周りの環境も変化をしてくれている。開設13年目を迎えるホームは、木のぬくもりを取り入れ落ち着いた雰囲気を持ち、2つのユニットは左右対称に作られている。各ユニットの居間と居間の間はパーティションで仕切られており、行事やイベント時はパーティションを開閉し広く使えるワンルームとして、みんなが楽しめる場所となっている。ホームの築年齢と共に入居者の介護度が進み認知症状が重度化していく中で、理念の「家庭的な日常生活を通して、安心と尊厳ある日常生活を営む」を職員皆で共有し、常に笑顔で目線を合わせて声掛けをしながら、本人が不安を感じることなく笑って過ごせる時間をより多く持てるような支援に努めている。また、「出来ない」ではなく、「出来ること」を認め、出来たことをみんなで喜び合い、笑顔があふれる支援に取り組むように心がけている。コロナ禍で外出や面会等規制がある中、食事の楽しみに力を入れたり、感染予防対策をしっかり取りながら散歩を継続している。管理者は他施設で見た経験の中で、ケアに役立つことや参考になることなど、また、職員の意見や提案なども良いことはすぐに実行してみる試みを継続し、ケアの改善や職員のモチベーションの向上、楽しい職場作りにも努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り時のミーティングや計画作成者との会議でも個々の利用者様への支援が理念に基づいているのかを確認している。	理念は、事務所や玄関等誰もが目にしやすい場所に掲示され、日々の業務やミーティング時、介護計画作成時等に理念に沿ったケアができていくか確認しながら、より理解を深め、業務に反映させ実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の加入は継続。今期はコロナ感染予防対策の為地域のボランティアさんの訪問は中止となっている。近隣の神社への散歩時に近所の方に出会った際の挨拶程度の交流となっている。	町内会に加入しており、回覧物から情報を収集している。コロナ禍の影響で、現在町内会の行事やボランティア訪問等はすべて中止となっている。日々の散歩は継続しており、近隣の方々とは挨拶程度の交流となっている。交流の盛んだった保育園との交流も規制されているが、園から送られた園児の絵を掲示するなどして関係を維持している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今期はコロナ感染予防対策の為、地域の交流や情報の発信等は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今期の運営推進会議は外部からの参加は依頼せず、往診医、訪問看護師への状況報告、意見を貰う事でサービスの向上を図った。	今年度、コロナ禍の為外部からの出席が得られないため運営推進会議は開催されていない。	運営推進会議が中止となった場合における取り扱いについては、あま市より令和2年2月28日に通知され、郵送等の書面開催の指示が出されている。コロナ禍においては、情報に対して敏感に収集し、曖昧な判断によらず、行政に問い合わせ、齟齬のない運営をしていくことを願いたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者様の医療、介護に係る申請時や電話での連絡時に情報のやり取り、助言を受けている。	介護認定や申請代行等で担当窓口を訪問している。市もコロナ関連で業務が煩雑化しており、情報収集や相談するのは大変であった。市からの連絡はメールでのやり取りが多く、情報を得たり、指示や指導を受けたりしている。市から情報を得た研修には、リモートも含めて参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今期は玄関の施錠は夜間帯のみとした。身体拘束をしなくても事故の無いケアを検討し、取り組んでいる。	3か月に1回「身体拘束適正化委員会」を開催している。スビーチロックに関しては職員に認識の甘いところがあり、重点的に話し合いを持ち、指導にあたっている。玄関の施錠は防犯上夜間帯のみとし、帰宅願望の強い入居者には見守りや行動を共にする等支援の方法を工夫し、拘束感のない生活支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高圧的な言葉や大きな声、子供扱いの言葉にも注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要と思う利用者様への支援や家族からの相談援助を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	コロナ感染予防の為、電話での対応も多く有ったが理解、安心を得てもらうまで何度も相談、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話での連絡時や面会に来られた際に状況の報告と共に意見や要望を聞き取りし、可能な事は行っている。	入居者からは日々の生活の中で思いや意向を聞き、記録して職員間で共有しケアにつなげている。家族には毎月個別に電話連絡を取ったり、写真やコメントを載せたホーム便りを送り、家族の安心につなげている。面会はコロナ感染予防対策を取りながら、予約制で短時間可能にしている。意見や要望は職員会議で検討し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日意見や提案を聞き取っており、出来る限り直ぐに対応している。	毎日の申し送り時に合わせてミーティングを行っている。業務中にも意見や提案があれば聞き、良いと思われることはすぐ実践してみる試みを継続している。職員からはモチベーションが上がり、自由に意見が言えて、考えたことが話し合いの結果すぐ実行できる楽しい職場であるとの意見が聞かれている。職員は年1回評価シートを作成し、管理者はそのシートを基に個々の意見や要望、悩みなどを聞き運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況、実績からの賞与や休憩室の環境整備、資格取得へのサポートなどに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人の希望や必要と思われる研修への参加を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今期は開催が殆ど無かったが、同業者との交流は保険者主催やグループホーム協会、名古屋介護サービス研究会の講習、研修への参加を進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今期は全ての方が認知症の症状から一人暮らしが困難となり入居に至った方で有ったので、共同生活への不自由や不安をありのまま伝えてもらえる関係を構築する所から行った。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今期はコロナ感染予防や緊急事態宣言もあり入居を待機して頂く事となり、その間にも何度か連絡や訪問を受けて相談援助を行った。市役所の福祉課との連携も密に取っていた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問い合わせの連絡の段階でまず何を困っているのか等を聞き、家族の状況などからもグループホームの入居が適切なのか他のサービス利用はどうかを考えて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を出来る人が行う。共に1日を過ごしている関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今期はコロナ感染予防から居室の衣替えの協力はして頂けていないが、ご家族の負担に留意しながら理美容の外出や体調管理の為に買い物等を協力してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今期はコロナ感染予防から友人の面会や友人宅への訪問は出来ていない。電話での連絡や年賀状のやり取りなどの支援にとどまっている。	喫茶店へ出かけたり、友人宅を訪問するなどの支援はコロナ禍で自粛している。感染予防対策をしながら散歩を継続し、近隣住民と挨拶を交わしたり、年賀状や電話での支援なども継続している。	絵手紙などを作成して、親しい知人や家族に送るなど、コロナ禍での室内レクリエーションと兼ね合わせた支援の工夫を期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の度合いが違う為に会話が成り立たない方も多くあるが、職員が間に入り歌を歌ったり体操、散歩で良好な関係を築けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今期は特に退去後の入院先がコロナ感染予防から面会制限となり先の相談を受ける事が多くあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉で表すことが困難な方が増えているが、本人にとっての幸せは？を一番に考えている。	介護度が進み、意志疎通が困難な入居者が増えている。生活の中で、「出来ないこと」ではなく「出来たこと」を共に喜びあう等、職員全員で入居者に寄り添い、入居者の笑顔が見えるケアを行うことを目指している。思いの表出が困難な方には本人本意に検討したり、家族の協力を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの聞き取り、ケアマネージャー、相談員からも情報をもらい、毎日の会話や生活の中から本人からも教えてもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の個々の支援を記録し、情報を職員間でも共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングや主治医や訪問看護師の助言、職員からの聞き取りからケアのあり方や方法を検討し本人の状況にあった計画を作成している。	毎月のカンファレンスで情報交換を行い、モニタリングを兼ねている。月2回の往診や週1回の訪問看護の情報や助言を参考にしながら、短期目標は6か月、長期目標は1年の期間を経て計画を見直している。状況に変化がある場合は随時計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の支援を記録しており、気づきや工夫は特に職員で共有し、計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他の利用者様へ影響が無く、職員への負担が増加しすぎない事は柔軟に取り組む。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	次年度の催しや使える地域資源を把握に努める。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族にかかりつけ医の往診日を伝えてあり、直接往診時に来所され相談したり、医師より状況報告を個別に電話連絡をしたり信頼関係を築けている。	入居時にかかりつけ医の希望を聞いている。内科の往診が月2回、精神科と歯科医の往診が月1回、歯科衛生士の指導が月2回、訪問看護が週1回ある。他の専門医は基本的には家族の協力を得ているが、家族の事情によっては職員でも対応している。結果については家族から報告を受け申し送りで周知し共有してケアに活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問となるが状況の報告、相談に対して適切な支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナ感染予防から病院からの指示が無ければ本人に面会はできなかったが、相談員との連携は余計に密に取っていた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の指針は説明しているが、重度化していく中でもその都度家族の意向を聞き話し合っている。	入居時に「重度化した場合における対応にかかる指針」を基に事業所の方針を説明している。積極的に看取りは行っていないが、状況に変化があればその都度家族の意向を確認し、医師と連携して対応している。終末期には状況を家族に伝え、家族の意思を確認しながら、事業所としてできることを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送時に必要な本人既往歴など記載された書類が作成しており、当日の職員が対応できるようにしてある。入社から日の浅い職員の訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時は近くの特養が避難の場所を提供してくれる。保険者開催の緊急時避難施設の会議へ参加し情報の取得は行っている。近隣に会社の寮へは協力を依頼している。今期は避難訓練は行えず。	緊急避難を想定して近隣の特養と提携を結び、災害時に起こり得る現実的な様々な問題の調整を行っている。地域の協力体制として近隣にある会社の寮へ協力を依頼している。行政による緊急時避難施設の会議が年2回程度あり、参加して対応を協議している。備蓄はあるが、平屋であるため、水害時には水没する可能性があることを認識している。今年度避難訓練は行っていない。	今年度災害対策としての訓練が行っていない。気象変動による災害や地震等いつ起きるか分からない災害に備えて、入居者の安全確保のため、消防署に提出する防災計画に沿ったシュミレーションをしたり、現在あるマニュアルを見直すなど対策が必要である。感染予防も考慮した対策の検討を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの誘導は耳元で行う。できない事では無く出来る事に対して声を掛けて喜び合う。換気の為に居室の戸を開ける際は時間を決めて開け閉めする。	基本として人生の先輩としての意識を持ち、本人の人格や誇りを尊重しつつ、トイレ誘導の声掛けや入浴支援時のプライバシー保護など現実的な対応を模索しながらケアに取り組んでいる。同じ行動を繰り返す入居者にもスピーチロックに気を付け、自尊心やプライドに気配りしながらの対応に努めている。	毎年度のステップアップの項目となっている。トイレの布製のカーテンは、コロナ下で換気がより必要となりプライバシー保護の観点からも気になる場所である。建物の構造的なものであるが、住環境の面から何らかの改善を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が可能な方にはおやつや飲み物を数種類から選んで貰ったり、移動介助が必要な方には行く、行かないを決めてもらったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	他の利用者様への影響や職員の負担が大きくなりすぎない限り個々のペースを大事にして支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	感染予防から職員による散髪支援は中止した為訪問理容を依頼して散髪してもらったり、入浴や洗顔後の乳液や化粧水を個々につけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備はお願いできる方がいないが片づけは可能な方には手伝って貰っている。食べる方は自由においしく食べて貰う事を大切にしている。	主食と汁ものは調理しているが、メニューや総菜は業者委託で、湯煎食材として届くものを盛り付けている。喫食状況により、刻みやとろみ、ムース等で対応することもある。周囲に気兼ねなく、ゆっくり美味しく食べられるよう配慮している。保有能力に合わせて片付けなど職員と一緒にしている。コロナの影響で外食は控えているが、入居者の希望を取り入れて寿司などテイクアウトし、ホームでゆっくり食事を楽しんだり、おやつ作りでは、お好み焼きやホットケーキなどを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を個々に記録しており、制限やとろみ剤の使用など個々の状態を把握した支援をしている。水分量の取れない方へは、ゼリーやスポーツドリンクなどもすすめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に歯磨き、入れ歯洗浄、うがい等の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意が薄れた方へは定期的なトイレ誘導の声掛けをしている。意思表示のできない方へも出来るだけトイレでの排泄を介助している。	個々の排泄状況を把握し、定期的な声掛けをしたり、動作や表情から察して耳元での声掛けを励行している。意思表示が困難な方でもトイレでの排泄を大切に支援している。夜間はオムツでも昼間はリハビリパンツを利用し、トイレでの自立支援に努めている。便秘予防には運動や腹部マッサージ、水分補給等に加え、乳酸菌飲料を利用して腸内環境を整え、薬に頼らない支援に努めている。「いきむ」ことができない入居者が増えてきており、排泄に関しては試行錯誤支援方法を模索している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取を嫌がられ便秘がちな方は、医師、ご家族に相談し乳酸菌飲料を定期的に持ってきて下さる事になり入所前まで使っていた下剤の服用をしなくてもよくなった。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の人数に余裕が無く、個々の希望を聞いて朝晩の何時でも入ってもらえる状況でない。基本は3日に1回入浴支援しているが、排便の状況によっては日数に関係なく支援している。音楽や人形を持って入ってもらう方もある。	基本的に、3日に1回は入浴としているが、汚染した場合はその都度対応している。シャワー浴の入居者が多く、湯の入れ替えは汚染された場合に行っている。ゆず湯やしょうぶ湯等季節の湯を楽しむこともある。入浴を拒否される方には、家族や主治医から声掛けをしてもらったり、音楽をかけたり人形を持って入られる方等個々の支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や消灯時間は決めておらず本人のタイミングで休んでもらっている。日中も休みたい時に横になってもらう。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の服薬の説明書をフロアに置いてある。薬の変更時は申し送りをしている。薬に関しての相談は医師、薬剤師共に連携を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、洗濯たたみ等を職員を共に行ってもらったり、塗り絵や編み物、歌を歌う等好きな事をしてもらえる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今期は特にコロナ感染予防から職員の外出援助は近隣の散歩のみとなった。ご家族の協力で兄弟の家や食事への外出は行って貰った。	コロナ禍の影響で、現在事業所としての外出は、散歩以外には行っていないが、ご家族の協力により理美容や外食に出かけている方はある。近隣の散歩では住民と挨拶を交わすなど交流している。買い物等、密となる可能性のある外出はコロナの感染状況を確認しながら、環境が整ってからの外出支援となる。不穏になる入居者には散歩に付き合う等の支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理はご家族が担っている。現在入居者様の中では所持、使う事の出来る方は無い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、本人の希望時や掛けてもらった際に話してもらえる様に支援している。年賀状は毎年出来る方には名前やメッセージを書いてもらい出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場所に季節の飾りを飾っている。行事の写真や壁に貼っていたが破ってしまう方があり中止している。トイレの換気扇、空気清浄機は常時稼働。	コロナの感染予防対策の為、換気や消毒に特に配慮している。そのような状況でも適切な室温を維持し心地よく過ごせる共用空間となっている。木造作りの平屋で天窓があり、明るくやわらかな光が取り入れられている。近隣の保育園から送られた作品や折り紙作品が少し高めの位置に飾られ、室内がすっきりとして見えるように工夫をしている。空気清浄機が設置され清潔な空間となっている。入居者は各々好きな場所に座りテレビを観たり、談笑して穏やかに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの食卓やソファー、玄関前の椅子など好きな場所で過ごしてもらえる様になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族と相談し、本人の馴染みの物を持ってきてもらっている。ラジオや家族の写真等を個々に持っておられる。	居間、入居者が部屋を空けているときに換気を行っている。入居時に家族と相談をして持ち込んだ馴染みの家具や小物、手作りの作品や家族の写真に囲まれ、居心地の良い空間作りをしている。職員と一緒に掃除をする等清潔にも努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名前を付け間違えにくい様になっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2395600022		
法人名	有限会社あおば会		
事業所名	あおば会グループホームやすらぎの家(南)		
所在地	愛知県あま市坂牧向江70番地		
自己評価作成日	令和3年3月15日	評価結果市町村受理日	令和3年5月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症が重度化された方が多くなった中でもお一人お一人へ何が必要なのかを考え、安心して過ごして頂ける様に職員全員が支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouId=2395600022-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和3年3月26日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大治町に隣接し、田畑や住宅が点在するのどかな環境の中に、一見民家のような佇まいで木造平屋建てのグループホームが建っている。年ごとに新しい住宅や老人福祉施設などが建てられ、周りの環境も変化をしてくれている。開設13年目を迎えるホームは、木のぬくもりを取り入れ落ち着いた雰囲気を持ち、2つのユニットは左右対称に作られている。各ユニットの居間と居間の間はパーティションで仕切られており、行事やイベント時はパーティションを開閉し広く使えるワンルームとして、みんなが楽しめる場所となっている。ホームの築年齢と共に入居者の介護度が進み認知症状が重度化していく中で、理念の「家庭的な日常生活を通して、安心と尊厳ある日常生活を営む」を職員皆で共有し、常に笑顔で目線を合わせて声掛けをしながら、本人が不安を感じることなく笑って過ごせる時間をより多く持つような支援に努めている。また、「出来ない」ではなく、「出来ること」を認め、出来たことをみんなで喜び合い、笑顔があふれる支援に取り組むように心がけている。コロナ禍で外出や面会等規制がある中、食事の楽しみに力を入れたり、感染予防対策をしっかりと取りながら散歩を継続している。管理者は他施設で見た経験の中で、ケアに役立つことや参考になることなど、また、職員の意見や提案なども良いことはすぐに実行してみる試みを継続し、ケアの改善や職員のモチベーションの向上、楽しい職場作りに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り時のミーティングや計画作成者との会議でも個々の利用者様への支援が理念に基づいているのかを確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の加入は継続。今期はコロナ感染予防対策の為地域のボランティアさんの訪問は中止となっている。近隣の神社への散歩時に近所の方に出会った際の挨拶程度の交流となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今期はコロナ感染予防対策の為、地域の交流や情報の発信等は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今期の運営推進会議は外部からの参加は依頼せず、往診医、訪問看護師への状況報告、意見を貰う事でサービスの向上を図った。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者様の医療、介護に係る申請時や電話での連絡時に情報のやり取り、助言を受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今期は玄関の施錠は夜間帯のみとした。身体拘束をしなくても事故の無いケアを検討し、取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高圧的な言葉や大きな声、子供扱いの言葉にも注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要と思う利用者様への支援や家族からの相談援助を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	コロナ感染予防の為、電話での対応も多く有ったが理解、安心を得てもらうまで何度も相談、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話での連絡時や面会に来られた際に状況の報告と共に意見や要望を聞き取りし、可能な事は行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日意見や提案を聞き取っており、出来る限り直ぐに対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況、実績からの賞与や休憩室の環境整備、資格取得へのサポートなどに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人の希望や必要と思われる研修への参加を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今期は開催が殆ど無かったが、同業者との交流は保険者主催やグループホーム協会、名古屋介護サービス研究会の講習、研修への参加を進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今期は全ての方が認知症の症状から一人暮らしが困難となり入居に至った方であったので、共同生活への不自由や不安をありのまま伝えてもらえる関係を構築する所から行った。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今期はコロナ感染予防や緊急事態宣言もあり入居を待機して頂く事となり、その間にも何度か連絡や訪問を受けて相談援助を行った。市役所の福祉課との連携も密に取っていた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問い合わせの連絡の段階でまず何を困っているのか等を聞き、家族の状況などからもグループホームの入居が適切なのか他のサービス利用はどうなのかを考えて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を出来る人が行う。共に1日を過ごしている関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今期はコロナ感染予防から居室の衣替えの協力はして頂けていないが、ご家族の負担に留意しながら理美容の外出や体調管理の為に買い物等を協力してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今期はコロナ感染予防から友人の面会や友人宅への訪問は出来ていない。電話での連絡や年賀状のやり取りなどの支援にとどまっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の度合いが違う為に会話が成り立たない方も多くあるが、職員が間に入り歌を歌ったり体操、散歩で良好な関係を築けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今期は特に退去後の入院先がコロナ感染予防から面会制限となり先の相談を受ける事が多くあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉で表すことが困難な方が増えているが、本人にとっての幸せは？を一番に考えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの聞き取り、ケアマネージャー、相談員からも情報をもらい、毎日の会話や生活の中から本人からも教えてもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の個々の支援を記録し、情報を職員間でも共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングや主治医や訪問看護師の助言、職員からの聞き取りからケアのあり方や方法を検討し本人の状況にあった計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の支援を記録しており、気づきや工夫は特に職員で共有し、計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他の利用者様へ影響が無く、職員への負担が増加しすぎない事は柔軟に取り組む。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	次年度の催しや使える地域資源を把握に努める。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族にかかりつけ医の往診日を伝えてあり、直接往診時に来所され相談したり、医師より状況報告を個別に電話連絡をしたり信頼関係を築けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問となるが状況の報告、相談に対して適切な支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ感染予防から病院からの指示が無ければ本人に面会はできなかったが、相談員との連携は余計に密に取っていた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の指針は説明しているが、重度化していく中でもその都度家族の意向を聞き話し合っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送時に必要な本人既往歴など記載された書類が作成しており、当日の職員が対応できるようにしてある。入社から日の浅い職員の訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時は近くの特養が避難の場所を提供してくれる。保険者開催の緊急時避難施設の会議へ参加し情報の取得は行っている。近隣に会社の寮へは協力を依頼している。今期は避難訓練は行えず。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの誘導は耳元で行う。できない事では無く出来る事に対して声を掛けて喜んび合う。換気の為に居室の戸を開ける際は時間を決めて開け閉めする。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が可能な方にはおやつ飲み物を数種類から選んで貰ったり、移動介助が必要な方には行く、行かないを決めてもらったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	他の利用者様への影響や職員の負担が大きくなりすぎない限り個々のペースを大事にして支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	感染予防から職員による散髪支援は中止した為訪問理容を依頼して散髪してもらったり、入浴や洗顔後の乳液や化粧水を個々につけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備はお願いできる方がいないが片づけは可能な方には手伝って貰っている。食べ方は自由においしく食べて貰う事を大切にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を個々に記録しており、制限やとろみ剤の使用など個々の状態を把握した支援をしている。水分量の取れない方へは、ゼリーやスポーツドリンクなどもすすめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に歯磨き、入れ歯洗浄、うがい等の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意が薄れた方へは定期的なトイレ誘導の声掛けをしている。意思表示のできない方へも出来るだけトイレでの排泄を介助している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取を嫌がられ便秘がちの方は、医師、ご家族に相談し乳酸菌飲料を定期的に持ってきて下さる事になり入所前まで使っていた下剤の服用をしなくてもよくなった。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の人数に余裕が無く、個々の希望を聞いて朝晩の何時でも入ってもらえる状況でない。基本は3日に1回入浴支援しているが、排便の状況によっては日数に関係なく支援している。音楽や人形を持って入ってもらう方もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や消灯時間は決めておらず本人のタイミングで休んでもらっている。日中も休みたい時に横になってもらう。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の服薬の説明書をフローに置いてある。薬の変更時は申し送りをしている。薬に関する相談は医師、薬剤師共に連携を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、洗濯たたみ等を職員を共に行ってもらったり、塗り絵や編み物、歌を歌う等好きな事をしてもらえる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今期は特にコロナ感染予防から職員の外出援助は近隣の散歩のみとなった。ご家族の協力で兄弟の家や食事への外出は行って貰った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理はご家族が担っている。現在入居者様の中では所持、使う事の出来る方は無い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、本人の希望時や掛けてもらった際に話してもらえる様に支援している。年賀状は毎年出来る方には名前やメッセージを書いてもらい出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場所に季節の飾りを飾っている。行事の写真や壁に貼っていたが破ってしまう方があり中止している。トイレの換気扇、空気清浄機は常時稼働。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの食卓やソファ、玄関前の椅子など好きな場所で過ごしてもらえる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族と相談し、本人の馴染みの物を持ってきてもらっている。ラジオや家族の写真等を個々に持っておられる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名前を付け間違えにくい様にしている。		